

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	林 亜紀 【理学専攻 平成24年度生】	本論文では、時系列データ可視化においてOverview（俯瞰）とSummarization（縮約）の2種類の機能を軸とした3手法をまとめたものである。本論文では、一般的な時系列データの例としてのシステムログの集計結果，位置情報を含む複合的な時系列データの例として購買ライフログの集計結果，記号ベースの時系列データの例として楽譜情報，の3種類の情報を可視化する手法を提案している。
論文題目	Time-series Visualization adopting Overview and Summarization (時系列データの俯瞰と縮約のための可視化)	学位論文審査は4回にわたって開催された。本論文では申請者が、時系列データ可視化という課題について網羅的に多くの問題を解決しており、当該分野の第一人者たる研究成果をあげたことを示している。また本論文の提案内容は、査読付き論文誌（またはそれと同等な書籍）合計3件に掲載されるとともに、有名国際会議でも3件講演されている。これらの顕著な研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。
審査委員	(主査) 教授 伊藤 貴之	第1回は平成27年6月10日に開催した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、そして第2回目以降の審査方法（申請者本人を呼び出しての審査方法）について審査委員間で合意をとった。
	教授 小林 一郎	第2回は平成27年7月2日，第3回は平成27年8月5日に開催した。いずれも学位申請者による40分程度の研究内容説明の後，各種の質疑を取り交わし，論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。
	教授 椎尾 一郎	そしてその後，平成27年8月21日に，公開発表会および最終試験を実施した。最終試験では，公開審査会にて研究内容を聴講した審査委員および出席者から，研究内容全般にわたって幅広く質問された。学位申請者は全ての質問に対して的確に回答し，本論文の研究内容の完成度の高さおよび，本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は，最終試験を合格と判定した。
	教授 吉田 裕亮	第4回は平成27年8月21日，公開発表会および最終試験の後に開催した。公開発表会および最終試験の内容を踏まえて，論文内容を最終確認した。
	准教授 齋藤 豪	以上の結果から本審査委員会は，本論文が人間文化研究科の学位，博士（理学）Ph. D. in Science の学位を受けるに相応しいと判断した。
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>イ. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>ウ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>エ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	